



Global Network
on Extremism & Technology



テロリストのプロパガンダが研究員のメンタルヘルスに与える影響を知る

Miron Lakomy および Maciej Bożek

2023年5月

エグゼクティブサマリー

GNETはロンドン大学キングスカレッジの *International Centre for the Study of Radicalisation* (ICSR: 過激化研究国際センター) が取り組む特別プロジェクトです。

本レポートの著者は Miron Lakomy および Maciej Bożek です。

Global Network on Extremism and Technology (GNET : 過激主義とテクノロジーに関するグローバルネットワーク) はテロリストのテクノロジー利用の理解と対抗措置のために業界が資金提供する独立したイニシアティブ、Global Internet Forum to Counter Terrorism (GIFCT : テロリズムに対抗するためのグローバルインターネットフォーラム) の支援を受けた学術研究のイニシアティブです。GNET はロンドン大学キングスカレッジの戦争研究学部の学術研究センター、International Centre for the Study of Radicalisation (ICSR) により召集され、統制されます。本文書に含まれる見解と結論は著者の見解と結論であり、明示、暗示を問わず、GIFCT、GNET または ICSR の見解と結論を代表するものではありません。

お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピーに関しては以下にお問い合わせください。

ICSR
King's College London
Strand
London WC2R 2LS
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**
E. **mail@gnet-research.org**

Twitter: **@GNET_research**

本エグゼクティブサマリーは複数の言語（アラビア語、英語、フランス語、ドイツ語、インドネシア語および日本語）で提供されています。GNET のその他の出版物同様に、これらおよびレポート全文（英語のみ）は GNET のウェブサイト www.gnet-research.org から無料でダウンロードできます。

© GNET

引用文献：

Lakomy, Miron および Maciej Bożek. “Understanding the Trauma-Related Effects of Terrorist Propaganda on Researchers.” ロンドン：Global Network on Extremism and Technology (GNET : 過激主義とテクノロジーに関するグローバルネットワーク)、2023 年 5 月。
<https://doi.org/10.18742/pub01-119>.

エグゼクティブサマリー

インターネット上のテロリズムと政治的暴力の調査に携わる研究員の安全とウェルビーイングは広範囲のリスクにさらされている。この下位区分学問分野において研究員が直面する課題については多年にわたり、余り知られていなかった。しかし、ネットユーザーに影響を与えるために殺害の場면을巧みに展開する、イスラム国のインターネット上のプロパガンダ・キャンペーンが始まってからこの認識は高まっている。その後、一部の研究員はテロリスト関連のコンテンツに長い間さらされることは彼らのウェルビーイングに有害でありうると報告した。

本リサーチプロジェクトはテロリストのプロパガンダにさらされること
が研究員のトラウマまたは精神障害の誘因となるかどうかについて検討
する。我々の研究はオンラインアンケートと新しい実験という二つの
調査手段に基づいている。オンラインアンケートに参加したテロリ
ズムの研究員は調査活動が彼らのメンタルヘルスに与える影響について
の意見と体験に関する質問を受けた。この実験ではバイオフィードバック
装置とアイトラッカーを利用し、インターネット上でアクセスできる普通
のコンテンツ（コントロールグループ）と特定タイプのテロリストのプロ
パガンダ（実験グループ）に対する研究員の短期的精神心理学的反応を測
定した。続いて両グループの反応（主に注視点と皮膚のコンダクタンス）
の比較を行った。

主な調査結果：

- アンケートに参加した研究員の大半が業務中に過激派の暴力的コンテ
ンツにさらされることにより少なくとも一度は精神面で悪影響を受けて
いたことが分かった。彼らの反応は広範囲にわたっていた。テロリストの
プロパガンダはしばしば悲しみ、いらだち、怒り、恐怖感を誘発する。
また、彼らは集中力の低下、頭痛、調査したコンテンツに関連した夢、
または記憶喪失ですら、頻繁に体験していた。これらの反応の多くはト
ラウマまたは精神障害の症状とみなされている。しかし、トラウマ関連
の最もひどい反応はより軽度な精神的反応ほど頻繁には起きていない。
- 殺人・処刑等の場面、極端なむき出しの感情や一般人の苦しみの表現は
過激派の暴力的コンテンツの中で研究員のメンタルヘルスに最も有害な
タイプのコンテンツである可能性がある。
- テロリズム研究分野において豊富な経験を積んだ研究員は通常テロリ
ストのコンテンツの視聴に伴うリスクをよりよく理解している。上級
の研究員はそのようなコンテンツと取り組む際、下級の研究員よりも
注意深い方法で対応する。
- 我々の実験によると、テロリズム研究員の短期的注意は主に顔、
ロゴタイプ、テキストと、画面の中心に表示された物体に向けられて
いる。また、研究員は主に残酷場面のコンテンツ、すなわち犠牲者
の顔、負傷および血が画面に表示されるたびにそれらを凝視する傾向
がある。この傾向はトラウマのリスクを軽減するための有望な解決策
を提供している。

- 我々のバイオフィードバック情報によると、テロリストのコンテンツにさらされた実験グループは通常のインターネット情報を視聴するコントロールグループよりもより大きな精神の不安定化を通じて現れる、強い賠償的な心理過程を示している。それはテロリズム研究員の対応プロセスに非常に重要であるかもしれない。
- アンケートに参加したテロリズム研究員の大半はメンタルヘルスへのリスクを軽減するためのサポートを雇用機関から受けたことがない。研究員のウェルビーイングを保護するためには学界の新しい基準と方針を早急に導入する必要がある。そのような方針には、大学の労働文化の改善、メンタルヘルスのカウンセラーへのアクセス、下級研究員のための意識向上トレーニングの実施などが含まれる。
- 相互の監督、チーム作業、感情的リセット手段および非常に挑戦的な視覚的刺激から目をそらす習慣の育成など、テロリストのコンテンツの分析における新しい手順の導入は研究員へのリスクを軽減するのに役立つかもしれない。心理的に厳しいコンテンツを視聴するための効果的な認知スキーマを考案することにより、この職業的体験を研究員の間としてのアイデンティティとは別の要素として区分することが可能になる。
- ユーモア、選択的な注意、スクリーンタイムの削減、休憩、分析的なマインドセットの採用は回答者の報告した最も有望な対応戦略である。ただし、その効果は複数の要因に左右される。すべてに対応できる単一の手段はない。



お問い合わせ

ご質問、お問い合わせおよび本レポートの追加コピーに関しては以下にお問い合わせください。

ICSR
King's College London
Strand
London WC2R 2LS
United Kingdom

T. **+44 20 7848 2098**
E. **mail@gnet-research.org**

Twitter: **[@GNET_research](https://twitter.com/GNET_research)**

GNET のその他の出版物同様に、本レポートは GNET のウェブサイト www.gnet-research.org から無料でダウンロードできます。

© GNET